

弱視学級

サポートだより



No.5 2021.11
発行：視覚支援センター
(山形盲学校 内)
TEL. 023-672-4116
文責：小林、早坂

山形盲学校高等部の入学者選考について

節目の学年が近づくと、次の進学先をどうしようかと保護者の方や本人が考え始めるのではないのでしょうか。また指導者側は先を見据えた進路指導も必要になりますね。今回は、山形盲学校高等部の受検についてお伝えします。

山形盲学校の高等部について

(1) 学科

①普通科 3年課程 「単一障がい学級」と「重複障がい学級」があります。

一般の高等学校のように学校生活、学習を行います。

②保健理療科 3年課程 中学校卒業後に学べる課程です。

高等学校の学習に加えて、「あん摩マッサージ指圧師」の国家資格獲得に向けての学習を行います。

③理療科（専攻科）3年課程 高等学校卒業後に学べる課程です。

「あん摩マッサージ指圧師」「鍼師」「きゅう師」の国家資格獲得に向けての学習を行います。

入学者選考について

1 入学者選考までの大まかな流れ（日程は今年度の場合）

入学者選考説明会 〈令和3年10月8日〉

進路等教育相談受付 〈令和3年10月11日～令和4年1月13日〉

進路等教育相談 〈令和3年11月8日～令和4年1月14日〉

入学願書受付 〈令和4年1月24日～令和4年2月4日〉

入学者選考日 〈令和4年2月18日〉

合格発表 〈令和4年2月28日〉

入学者説明会 〈令和4年3月17日〉

2 志願資格

(1) 各科共通

視覚障害の程度が、以下に示す学校教育法施行令第22条の3に該当する者

「両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの」

(2) 普通科、保健理療科

中学校または特別支援学校の中学部を卒業した者、またはその年度に卒業見込みの者、又はこれと同等の資格を有する者

(3) 理療科（専攻科）

高等学校または特別支援学校の高等部（本科）を卒業した者、またはその年度に卒業見込みの者、又はこれと同等の資格を有する者

3 入学者選考説明会

高等部への入学を希望する本人と保護者、学校関係者の方に、本校の高等部各科の教育と入学者選考についての説明を行います。この会の案内は、7月中に県教育委員会や市町村教育委員会を通じて中学校に配付されます。参加については事前申し込みが必要になり学校を通じて行うこととなります。

4 進路等教育相談

志願資格があるのかの判断と、適切な進路についての相談等を行います。なお、志願にあたっては、**必ず**この相談を受ける必要があります。

5 入学選考

会場 山形盲学校

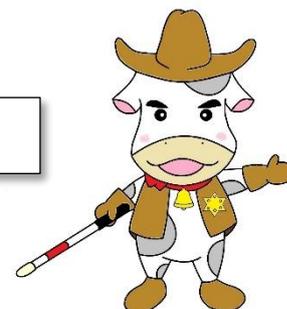
選考方法（昨年度の場合）

学力検査、調査書、眼科医の診断書、面接等を総合的に評価します。重複障がい学級は、学力検査に変えて口頭試問や行動、作業等の観察を行います。

※毎年12月に、各学科の「入学者募集要項」を各教育委員会を通じて各学校に配付いたします。「志願資格」「選考方法」については、それに詳細を明記しておりますので確認ください。

高等部卒業後の進学先（理療関係以外）

つづいて、盲学校生の理療関係以外の進学先について紹介します。



1 四年制大学

全国的に、盲学校生の大学進学が増えてきました。本校からも大学進学をしています。盲学校から大学に進む生徒は、全国で約30名程度です。5教科の試験を受ける生徒は少なく、AO（自己推薦）方式で入学しているケースがほとんどです。

(1) 筑波技術大学[筑波技大]（茨城県つくば市）

日本でただ一つの視覚障がい者、聴覚障がい者のための大学です。全国の盲学校から大学へ進学する多くの生徒がこの大学に入学しています。鍼灸学、理学療法学、情報システムの3つのコースがあります。

(2) 私立大学

次に全国の盲学校の生徒の進学先として多いのが、私立大学です。視覚障がい者への配慮がなされている大学は増えてきました。中でも、東京都町田市にある和光大学は、受け入れを積極的に行っています。

(3) センター試験を経て入学する大学（国公立大学など）

センター入試を受ける盲学校出身の生徒は全国で2～3名程度です。合格者は非常に少ないのが現状です。

2 リハビリテーション施設・職業能力開発校

(1) 国立職業リハビリテーションセンター〔略称：国リハ〕（埼玉県所沢市）

障がいのある方が職業につくための訓練を行う施設です。様々な訓練コースが設置されており、その中には視覚に障がいのある方のパソコン技能の習得を目標とした「視覚障害者情報アクセスコース」があります。訓練期間は1年間で定員は25名となっています。

(2) 宮城障害者職業能力開発校（仙台市青葉区）

この施設も国立職業リハビリテーションセンターと同じような役割です。短期訓練の中に、視覚に障がいがある方が対象のパソコン基礎科があります。訓練期間は6ヶ月で、定員は10名（1回5名・年2回）となっています。



3 筑波大学附属視覚特別支援学校

日本でただ一つの国立大学法人の視覚特別支援学校で、視覚障がい教育の実践を通して、筑波大学の教育研究に協力・寄与する目的で設置されました。幼稚部、中学部、高等部普通科、高等部音楽科、高等部専攻科があります。

4 卒業後に受験準備（浪人）をする場合

視覚障がいがある生徒も、他の高校生と同様、大学進学を目指して準備をしてきても、受験した大学すべてに不合格になるということもあります。さらに1年間受験勉強をする場合には、次のどちらかを選択することになります。

(1) 京都府立盲学校専攻科普通科（京都市北区）

日本で唯一設置されている高等部専攻科普通科で、盲学校高等部又は高等学校卒業者が、普通教科をより深く学ぶことができる課程です。教育年数は1年です。視覚障がいに配慮された環境で普通教科の学習ができます。本人や保護者の住所が京都府にない生徒の場合も住居する都道府県の盲学校に専攻科普通科がないことによる「入学志願許可申請書」を都道府県の教育委員会を經由して提出することで、受験することができます。

(2) 自宅から予備校や塾に通う

予備校の授業は一斉授業で、特別な配慮はありません。テキストの点訳なども個人で点訳団体へ依頼するなど個人で行わなければならない手続きも多くあります。出身の盲学校にサポートをしてもらえるか相談することをお勧めします。

